



2021年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2021年8月6日

上場会社名 スターツ出版株式会社
 コード番号 7849 URL <https://starts-pub.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菊地 修一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 金子 弘

TEL 03-6202-0311

四半期報告書提出予定日 2021年8月6日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第2四半期の業績(2021年1月1日～2021年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第2四半期	2,626	42.3	351		444		270	
2020年12月期第2四半期	1,845	19.5	109		27		66	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第2四半期	140.99	
2020年12月期第2四半期	34.53	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期第2四半期	6,154	5,034	81.8	2,622.25
2020年12月期	5,755	4,832	84.0	2,517.05

(参考)自己資本 2021年12月期第2四半期 5,034百万円 2020年12月期 4,832百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期		0.00		35.00	35.00
2021年12月期		0.00			
2021年12月期(予想)				35.00	35.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年12月期の業績予想(2021年1月1日～2021年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,000	12.7	550	224.8	640	144.1	390	124.9	203.14

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年12月期2Q	1,920,000 株	2020年12月期	1,920,000 株
期末自己株式数	2021年12月期2Q	147 株	2020年12月期	147 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年12月期2Q	1,919,853 株	2020年12月期2Q	1,919,853 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績見通し等に関する事項はP. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報の(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果や海外経済の改善もあり持ち直しの動きが見られましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により経済活動が制限されるなど依然として厳しい状況となりました。今後はワクチン接種の進展などにより経済活動の回復が期待されますが、変異株による感染再拡大もあり依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社は「感動プロデュース企業へ」という経営ビジョンのもと、既存の出版社の枠にとらわれず「メッセージやストーリーの詰まったコンテンツとサービスで、新たな時間の使い方や、ライフスタイルを提案し、感動の輪を広げる」ことを目的として、紙・電子出版による雑誌や書籍、コミックの発行、女性向けWEBサイト「オズモール」や小説サイト「野いちご」等の運営、オンラインを含むイベント開催とそれらを掛け合わせたPR・販促ソリューションの提供を軸として事業を運営してまいりました。

当第2四半期累計期間は、新たなスローガンとして「デジタルマーケティングを駆使する出版社へ」を掲げ、デジタルマーケティングを活用した自社サービスの認知向上と市場における影響力の拡大、クライアントへのソリューション提案に注力してまいりました。書籍、コミックの販売では、発行点数の増加、SNS等を活用した販促施策が奏功し好調に推移いたしました。一方で、レストラン等の施設予約サービス「オズのプレミアム予約」では、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、緊急事態宣言の発出等による外出自粛要請、飲食店等の掲載施設の休業や営業時間短縮等により利用者数が低迷しております。また、雑誌及びWEB広告の掲載見合わせ、タイアップイベントの延期等が発生いたしました。

このような営業活動の結果、当第2四半期累計期間の売上高は26億26百万円（前年同期比42.3%増）、営業利益は3億51百万円（前年同期は、営業損失1億9百万円）、経常利益は4億44百万円（前年同期は、経常損失27百万円）、四半期純利益は2億70百万円（前年同期は、四半期純損失66百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期会計期間より、報告セグメントの名称を従来の「東京マーケティングドメイン」を「メディアソリューション事業」に、「投稿コンテンツドメイン」を「書籍コンテンツ事業」に変更しております。この報告セグメントの名称変更がセグメント情報に与える影響はありません。

<メディアソリューション事業>

メディアソリューション事業では、オリジナルのマーケティング・モデルを創造するという戦略のもと、当社の独自基準で厳選したビューティサロン、ホテル、レストラン等の施設予約サービスを提供する「オズのプレミアム予約」と、「オズモール」「オズマガジン」「メトロミニッツ」等のメディアと公式SNSによる情報発信、SNSコミュニティ「東京女子部」によるインフルエンサーマーケティングや「オズモール」の会員組織を活用したマーケティング支援等を組み合わせたPR・販促ソリューションを中心に展開してまいりました。

「オズのプレミアム予約」では、ユーザー満足度の高い施設の開拓と予約プランの開発、SEO等のユーザー集客施策の強化、CRM強化によるユーザーロイヤルティの向上に注力してまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による政府・自治体からの外出自粛要請及び掲載施設の休業、営業時間短縮などの影響を受け利用者数が低迷しております。PR・販促ソリューションでは、緊急事態宣言の発出等により雑誌及びWEB広告の掲載見合わせ、タイアップイベントの延期等が発生しておりますが、フリーマガジン「メトロミニッツ」のリニューアル、SNSや動画、オンラインイベントを掛け合わせた提案が奏功し受注が復調したことにより、前年同期と比較して売上は微増となりました。

このような営業活動の結果、メディアソリューション事業の売上高は10億24百万円（前年同期比7.3%増）、営業損失は2億65百万円（前年同期は、営業損失3億26百万円）となりました。

<書籍コンテンツ事業>

書籍コンテンツ事業では、書籍、コミックの発行点数の増加、SNS等を活用した販促施策に注力してまいりました。書籍の販売は、SNS等を活用した販促施策が奏功し、「スターツ出版文庫」において複数のヒット作品が生まれたこと、「ベリーズファンタジー」「野いちごジュニア文庫」の販売増加が寄与したことなどにより好調に推移いたしました。コミックの販売は、発行点数の増加や新規販路の開拓、昨年12月に創刊した「ベリーズファンタジーコミックス」の販売増加が寄与したことにより、前事業年度から引き続き好調に推移いたしました。利益面では、利益率が高い紙の書籍の重版及び電子コミック、電子書籍の販売が増加したことにより、前年同期と比較して利益率が上昇いたしました。

5月には新たな取組みとして、男性を含めた幅広い層をターゲットに、異世界ファンタジー作品を中心とした電子コミック誌『comicグラス』を創刊し、新たな読者層の獲得に注力しております。

このような営業活動の結果、書籍コンテンツ事業の売上高は16億2百万円（前年同期比79.9%増）、営業利益は6億64百万円（前年同期比150.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比べて3億98百万円増加し、61億54百万円となりました。

流動資産は、売掛金が2億22百万円、その他流動資産が1億90百万円減少した一方で、現金及び預金が8億38百万円増加したこと等により、前事業年度末に比べて4億39百万円増加し、50億70百万円となりました。

固定資産は、減価償却が進んだこと等により前事業年度末と比べて40百万円減少し、10億84百万円となりました。

(負債)

当第2四半期会計期間末の負債は、前事業年度末と比べて1億96百万円増加し、11億19百万円となりました。

流動負債は、買掛金が16百万円減少した一方で、未払法人税等が1億49百万円、返品調整引当金が29百万円増加したこと等により、前事業年度末と比べて1億91百万円増加し、9億15百万円となりました。

固定負債は、前事業年度末と比べて4百万円増加し、2億4百万円となりました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べて2億1百万円増加し、50億34百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金および現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ8億38百万円増加し、20億36百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の増加26百万円、仕入債務の減少16百万円による資金の使用の一方で、税引前四半期純利益4億43百万円、売上債権の減少2億22百万円、その他の資産の減少1億73百万円等の資金の獲得により、9億30百万円の資金を獲得（前年同四半期は3億82百万円の資金を獲得）いたしました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、「オズモール」のシステム開発等の無形固定資産の取得23百万円等により、24百万円の資金を使用（前年同四半期は46百万円の資金を使用）いたしました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払により、67百万円の資金を使用（前年同四半期は67百万円の資金を使用）いたしました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想については、2021年2月10日発表の「2020年12月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」に記載しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,198,132	2,036,950
売掛金	1,606,714	1,384,163
製品	49,225	60,360
仕掛品	43,625	58,618
前払費用	21,577	37,858
未収還付法人税等	27,466	-
関係会社預け金	1,500,000	1,500,000
その他	238,286	47,805
返品債権特別勘定	△53,452	△54,806
貸倒引当金	△804	△943
流動資産合計	4,630,769	5,070,006
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	18,804	17,921
工具、器具及び備品(純額)	8,963	8,780
有形固定資産合計	27,767	26,702
無形固定資産		
商標権	1,069	906
ソフトウェア	246,707	209,136
ソフトウェア仮勘定	2,843	3,726
電話加入権	2,376	2,376
無形固定資産合計	252,996	216,145
投資その他の資産		
親会社株式	620,775	615,793
投資有価証券	94,044	96,842
差入保証金	96,995	96,895
その他	32,373	31,881
投資その他の資産合計	844,189	841,413
固定資産合計	1,124,953	1,084,261
資産合計	5,755,723	6,154,268

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	332,573	316,427
未払金	35,998	34,214
未払費用	27,934	32,338
未払法人税等	-	149,423
未払事業所税	4,286	1,873
未払消費税等	20,752	48,255
前受金	3,803	7,059
預り金	42,485	40,888
賞与引当金	24,500	24,500
返品調整引当金	227,347	256,733
ポイント引当金	3,524	3,409
流動負債合計	723,205	915,123
固定負債		
繰延税金負債	133,914	133,550
退職給付引当金	12,639	14,461
役員退職慰労引当金	53,600	56,800
固定負債合計	200,154	204,811
負債合計	923,359	1,119,935
純資産の部		
株主資本		
資本金	540,875	540,875
資本剰余金	536,125	536,125
利益剰余金	3,306,216	3,509,700
自己株式	△350	△350
株主資本合計	4,382,866	4,586,350
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	449,496	447,982
評価・換算差額等合計	449,496	447,982
純資産合計	4,832,363	5,034,333
負債純資産合計	5,755,723	6,154,268

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
売上高	1,845,129	2,626,227
売上原価	1,285,945	1,409,353
売上総利益	559,184	1,216,874
返品調整引当金戻入額	211,470	227,347
返品調整引当金繰入額	184,496	256,733
差引売上総利益	586,158	1,187,488
販売費及び一般管理費	695,193	836,167
営業利益又は営業損失(△)	△109,035	351,320
営業外収益		
受取利息	3,723	3,723
受取配当金	71,891	81,003
雑収入	5,074	8,401
貸倒引当金戻入額	994	-
営業外収益合計	81,683	93,128
営業外費用		
雑損失	61	16
営業外費用合計	61	16
経常利益又は経常損失(△)	△27,412	444,431
特別損失		
固定資産除却損	-	560
特別損失合計	-	560
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△27,412	443,871
法人税、住民税及び事業税	32,030	172,888
法人税等調整額	6,844	304
法人税等合計	38,874	173,192
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△66,287	270,679

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△27,412	443,871
減価償却費	63,284	61,728
固定資産除却損	-	560
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△685	138
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	2,600	3,200
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△7,500	-
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	5,259	1,822
返品債権特別勘定の増減額 (△は減少)	△35,227	1,354
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△26,973	29,385
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△1,079	△114
受取利息及び受取配当金	△75,615	△84,726
売上債権の増減額 (△は増加)	744,764	222,551
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△22,235	△26,127
その他の資産の増減額 (△は増加)	△11,838	173,477
仕入債務の増減額 (△は減少)	△47,728	△16,146
未払金の増減額 (△は減少)	△16,211	△456
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△41,530	27,503
その他の負債の増減額 (△は減少)	△11,269	3,649
その他	△5,041	6,641
小計	485,559	848,313
利息及び配当金の受取額	24,240	84,726
法人税等の支払額	△127,765	△2,640
営業活動によるキャッシュ・フロー	382,034	930,399
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△16,409	△2,285
無形固定資産の取得による支出	△30,851	△23,276
その他の収入	900	1,092
投資活動によるキャッシュ・フロー	△46,360	△24,468
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△67,275	△67,111
財務活動によるキャッシュ・フロー	△67,275	△67,111
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	268,398	838,818
現金及び現金同等物の期首残高	1,304,240	1,198,132
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,572,639	2,036,950

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響について)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響について)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額(注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	メディアソリューション事業	書籍コンテンツ事業			
売上高					
外部顧客への売上高	954,395	890,734	1,845,129	—	1,845,129
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	954,395	890,734	1,845,129	—	1,845,129
セグメント利益 又は損失(△)	△326,073	264,859	△61,213	△47,822	△109,035

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△47,822千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額(注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	メディアソリューション事業	書籍コンテンツ事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,024,072	1,602,154	2,626,227	—	2,626,227
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,024,072	1,602,154	2,626,227	—	2,626,227
セグメント利益 又は損失(△)	△265,702	664,417	398,715	△47,394	351,320

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△47,394千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 第1四半期会計期間より、報告セグメントの名称を従来の「東京マーケティングドメイン」を「メディアソリューション事業」に、「投稿コンテンツドメイン」を「書籍コンテンツ事業」に変更しております。この報告セグメントの名称変更がセグメント情報に与える影響はありません。なお、前第2四半期累計期間の報告セグメントについても、変更後の名称で表示しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。